

政務活動費活動報告（視察）

- (1) 出席者（会派名・個人名）
begin27・明るい彦根市民の会（谷口典隆・獅山向洋）
- (2) 実施日：平成 29 年 1 月 30 日（月）～31 日（火）
- (3) 調査項目
 - ①神奈川県鎌倉市：パークアンドライドについて
 - ②東京都大田区：大田区総合体育館について

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

観光シーズンや休日には彦根市内の道路は彦根城周辺を中心に慢性的に渋滞が発生している。これは、城下町特有の道路事情に加え、駐車場不足が原因とされていることから、市内原町の土地約 9,800 平方メートルを取得し、パーク・アンド・バスライド拠点整備事業を実施する計画である。

また、新市民体育センターの建設については、候補地とされる場所が示されたものの、敷地面積や地形などの面から、限られた条件の中で国体の屋内競技を実施できる機能を十分に確保できるのかといった課題もあり、今後プロポーザルによる設計業務なども含めた、適切な新市民体育センターに係る予算や事業計画の遂行が望まれる。

(2) 本市における課題

平成 36 年に本市を主会場として開催される第 79 回国民体育大会および第 24 回全国障害者スポーツ大会を控え、円滑な道路交通環境を整備することが喫緊の課題である。こうした中、道路交通網充実のため、国および県を主体とする国道 306 号バイパスおよび国道 8 号バイパスの整備事業を推進しているところではあるが、これら道路整備とあわせて、彦根城周辺への自動車の流入対策も講じていく必要がある。

しかし、自動車交通量抑制のためのパーク・アンド・バスライド事業のための用地は名神高速道路の彦根インターチェンジからは至近ではあるが、市街地からの距離を考えると、利用者確保のためにあらゆる手段を講じていかなければならないと考えるものである。

新市民体育センターの建設にあつては、現在のひこね燦ばれすが位置する場所を候補地としていることから、市が提示するひこね燦ばれすが所有する機能と新市民体育センターとの合築案が、本来の体育館の役割を鑑みて、果たして妥当性があるのかが課題といえる。また同地については未だ彦根市が未所有な土地もあることや、同地の形状が近隣住宅街に入り組んでいることなど、今後も議論を要すると思われる課題も残る。また、ひこね燦ばれすと合築により、同施設も利用不可となることを考え合わせると、公共施設利用の観点から一層の市民サービスの低下は否めず、再考を促す声もある。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

- ①神奈川県鎌倉市：パークアンドライドについて
- ②東京都大田区：大田区総合体育館について

(2) 選定地 1：神奈川県鎌倉市

理由：年間 2,000 万人の観光客が訪れる鎌倉市におけるパークアンドライドの導入経緯や実績などについて、その取り組み等を参考とするため

選定地 2：東京都大田区

理由：平成 24 年に竣工した大田区総合体育館は、弓道場や会議室を併設していることや、地域に開かれた講座等を開催していることから、その概要と完成に至るまでの経緯について、その取り組み等を参考とするため

【3. 調査結果】

神奈川県鎌倉市

(1) 内容

■鎌倉市のパークアンドライド

約 800 年以上前から、市内の主要道路の骨格は大きく変わっていないとされる古都・鎌倉市では、平成 13 年度からパークアンドライドの運用を開始しており、現在は七里ガ浜・由比ガ浜・江の島・稲村ヶ崎の 4 ヶ所の駐車場で実施されている。

観光スポットが集中している鎌倉地域では狭隘な道路が多いことから慢性的な交通渋滞が発生しており、パークアンドライドは同地域の渋滞緩和を目的としているもので、鎌倉地域の周辺にある既存の駐車場に車を停め、江ノ電等の公共交通機関に乗り換えて目的地に向かう方式を採用されている。

(2) 考察

鎌倉市におけるパークアンドライドの特徴は、4 ヶ所の駐車場運営を含めた同事業を、公費を使わず民間による運営で展開されているところにある。したがって、駐車料金や利用特典、利用可能時間などもそれぞれ異なり、利用者が目的地や観光スタイルにあわせて、利用する駐車場を選択できるところに利点があるものと思われる。

年間の利用台数は 4 ヶ所合計で平成 26 年度以降、約 19,000 台で推移しており、利用者数や費用対効果の観点からは一定の成果がみられると感じるものの、年間の入り込み客数が 2,000 万人を数える同市におけるその効果は、担当者によれば微々たるものであり、今後は鎌倉地域への流入車両に対し課金する「ロードプライシング」も視野に入れた交通計画に取り組んでいくとのことであった。

彦根市において実施を目指すパーク・アンド・バスライド事業においては、鎌倉市の民間に委託する形での事業実施ではなく行政直営であることを考えると、駐車場に車を停め、わざわざバスに乗り換えてもらう明確な動機が必要であり、社会実験による綿密な調査が必要であるとの認識を得たところである。

東京都大田区

(3) 内容

■大田区総合体育館概要

敷地面積：8,500 m²

建築面積：5,826.51 m²

延床面積：13,983.36 m²

最高高さ：19.99m

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄筋コンクリート造鉄骨造

着工：平成 21 年 6 月

竣工：平成 24 年 3 月

観客席数：4,012 席（メインアリーナ）・200 席（サブアリーナ）

駐車台数：65 台

駐輪場：148 台

総工費：約 71 億円

設計者：株式会社石本建築事務所

施工者：フジタ・幸・河津・甲田建設工事共同企業体（建築）

サンテック・新星・高田・仲村建設工事共同企業体（電気）

朝日・装芸・福進建設工事共同企業体（機械）

フジテック株式会社（昇降機）

大田区民が生涯を通じてスポーツに親しむことにより、健康で豊かな人生を楽しむことができる社会の実現に寄与することを目的に、平成 24 年 6 月に開館した大田区総合体育館は、「みる」スポーツと「する」スポーツを基本コンセプトに整備され、「みる」スポーツでは国際試合や全日本レベル、また各スポーツのリーグを誘致し、「する」スポーツでは、区民がスポーツに親しめるようスポーツ教室などの事業を実施されている。

(4) 考察

大田区総合体育館は現在、「住友不動産エスフォルタ・JTB・NTT ファシリティーズグループ」が指定管理者として運営しており、「みる」スポーツにおいては、プロ・アマを問わずあらゆるスポーツ大会の誘致を図っておられる。これは指定管理者である JTB が様々なネットワークを駆使し、各種スポーツのリーグ事務局などに誘致を働きかけた成果であり、プロバスケットボール B リーグやバレーボールの V リーグの試合が定期的に行われているほどである。また設計段階からプロスポーツのリーグ事務局と接触を図り、公式試合に対応できる仕様やテレビ中継に対応するためのバックヤードの設計など細部にわたりそれらの意見を反映した成果があらわれているとされており、実際に利用する側の意見や要望を汲み取り、反映できる柔軟性は、結果的に各種スポーツ団体から高い評価を得られているとのことで、こうした誘致に対する取り組みは地方都市においてはさらに綿密に取り組む必要性を感じた次第である。

「する」スポーツにおいては、130 にも及ぶスポーツ教室を自主事業として開催されていることに

加え、毎月定期的に個人開放日を設けて、区民があらゆるスポーツに親しめる機会を設けておられることは、生涯スポーツの拠点として同体育館が区民に利用されている証左であるものと思われる。また近的5人立の弓道場を併設していることから、整備に際し大田区弓道連盟からヒアリングを行ったとの説明もあり、事前に利用者のニーズを把握する取り組みは「する」スポーツの分野においても奏功しているとの感を得た。

現在、プロスポーツの試合などで稼働率は高止まりしている一方で、区民が利用したくても利用できる暇がないというのが実状とのことであり、スポーツ教室以外のアリーナ等の区民利用を今後はいかに増やしていけるかが大きな課題であるとのことであった。

彦根市においては新市民体育センターの設計業務を委託する業者がプロポーザルにより決定されたが、市民や利用者の意見をいかに反映できるかが大きなカギであり、ひこね燦ばれすとの合築を目指すのであればなおさらである。また指定管理者の選定にあつては、大規模なスポーツ大会の誘致ノウハウや同種の体育館の運営実績も勘案する必要があるものと思われる。